

他県への視察報告（兵庫県洲本市）

○ 兵庫県洲本市

農業経営体数 1,322経営体

うち、乳用牛	40戸 (1,349頭)	13.1億円
肉用牛	278戸 (4,694頭)	16.4億円

水稲	1,071戸	8.3億円
たまねぎ	415戸	(野菜計) 15.7億円

農水省HP (<https://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/28/205/index.html>) より抜粋

○ 稲WCSを利用する、

- | | |
|----------------|------|
| ・ 酪農経営 | K 牧場 |
| ・ 肉用牛（肥育・繁殖）経営 | T 牧場 |
| ・ 肉用牛（繁殖）経営 | S 牧場 |

の3経営体の視察を行いました

【K 牧場】

○ 経営の概要

労働力 : K 氏夫妻 + 常勤職員 4 名、繁忙期には臨時雇用
(うち、1 名は、飼料生産専門)

経営規模 : 搾乳牛頭数約 100 頭

WCS 20ha、とうもろこし 6ha (×2回)、イタリアンライグラス 6ha
(これらの飼料生産に必要な作業機械を多数保有する)



○ 乳牛の飼養状況

- ・ 自給飼料を原材料の一部にして、自家製混合飼料 (TMR) を製造して給与
- ・ WCS は、TMR として 2kg/頭 ※1
+ 乾牧草の一部代替として 1 ロール 300kg を約 30 頭に給与 ※2
- ・ ※1 を平成 20 年頃から、近年の飼料価格高騰を受けて ※2 を追加したが、健康状態や乳量への影響はない。嗜好性は良好。



○ 耕畜連携の取組状況

- ・ **K 牧場の所有する機械 (+ 人員) で作業を受託。**
※ 自給飼料生産用の作業機械を多数所有、これらを活用。

1) WCS の収穫作業受託

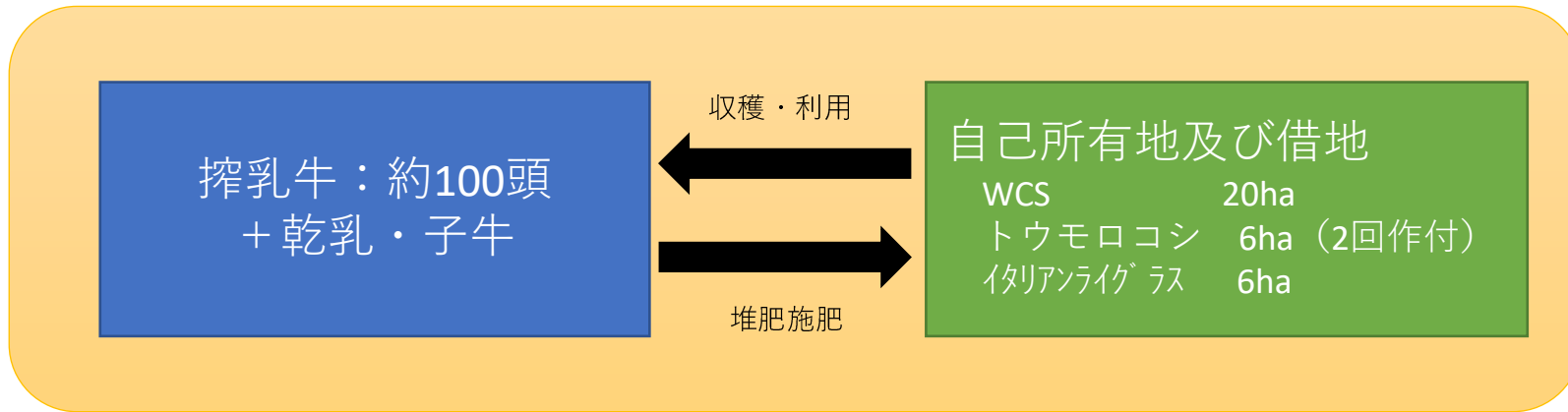
- ・ 基本の受託料は低めであるが、収穫した WCS は K 牧場のものとなる
- ・ 水管理等、必要に応じて確認した上で、指示
- ・ 収穫物を利用する **畜産農家が作業** するため、収量よりも **品質重視**
- ・ 一部、畜産農家に販売も行う (3,000 円/ロール)

2) 堆肥散布作業受託 (WCS ・ その他野菜等)

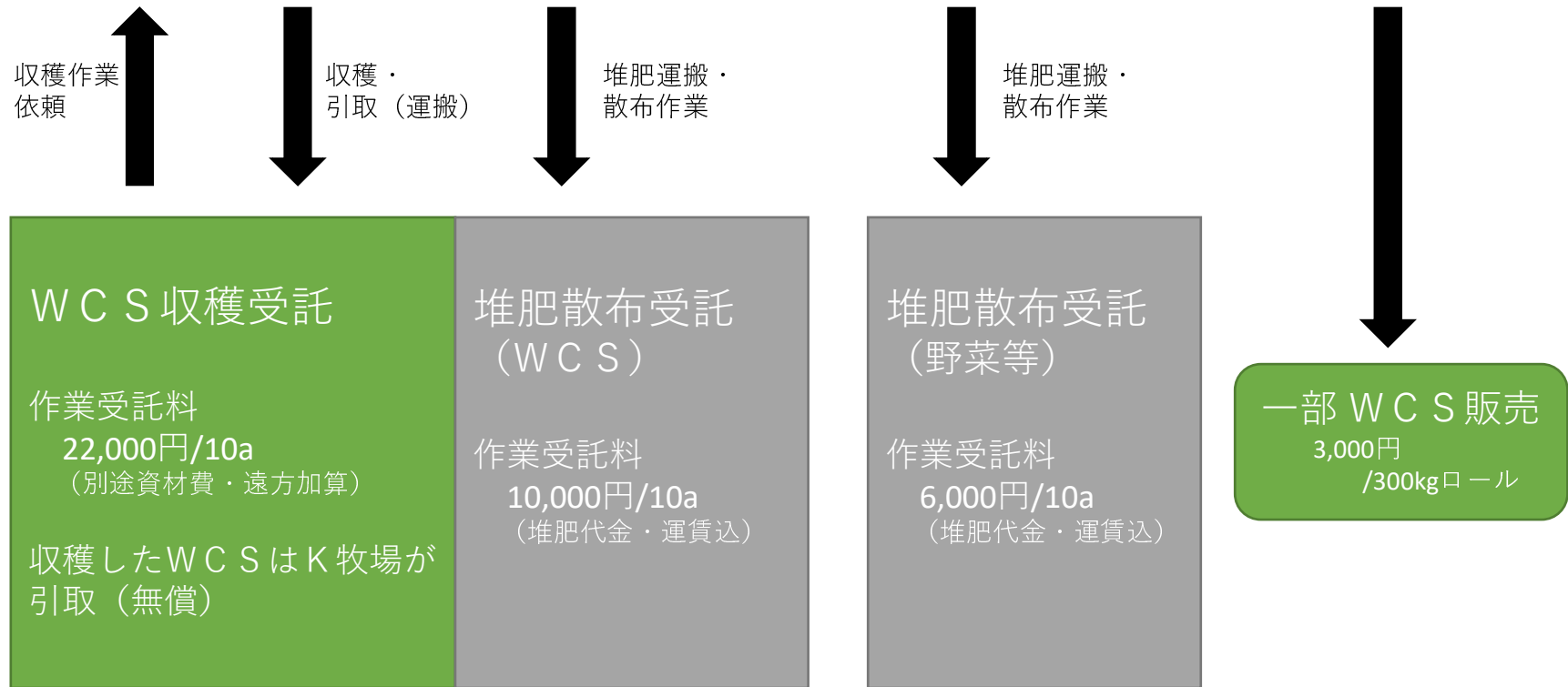
- ・ 堆肥代と運賃を含めて散布作業を受託



経営内



経営外



※ 肥培管理や水管理等は耕種農家が実施

【T牧場】

○ 経営の概要

労働力：常勤職員 8 名、アルバイト 3 名

(うち、社長 (T氏) ・事務職員 1 名含む)

経営規模：肥育牛約600頭 (和牛50、交雑種550)、繁殖牛64頭 (うち、但馬牛50頭)

自給飼料は、粗飼料 (稲わら・WCS) の自給率が約90%

(モア、ロールベラ、トラクター等、必要機械を自己所有)

★R元年に地域でA農事組合法人ができ (T氏は役員)、作業受託も増えた

A農事組合法人：組合員 4 8 名、役員 1 4 名 (内、7 名が畜産農家)

WCS 約10.8ha、刈りアンライグラス約12.2ha、水稻約8.0ha 等



○ 耕畜連携の取組状況

- ・ **T牧場の所有する機械で作業を受託。** (農事組合法人内で稲作からWCSへの転換により受託増)

1) WCS の収穫作業受託

- ・ 栽培品種はキヌヒカリ、5月中旬に定植して8月前半 (乳熟期) に収穫。
- ・ **畜産農家が作業** するため、**品質は担保** (100kg × 7 ~ 10 ロール/10a)
- ・ 農事組合法人が国補助金を受領、耕種・畜産の双方の農家に分配



2) 堆肥散布作業受託 (WCS ・ その他野菜等)

- ・ 堆肥代と運賃を含めて散布作業を受託

○ WCS の給与状況

- ・ T牧場では、WCSを給与前にカットしており、嗜好性は良好。粗飼料給与体系は以下の通り。

子牛：3か月齢までは、カットしたチモシー、オーツヘイ。以降、WCSに切り替え。

肥育牛：12か月齢までは全量WCS。以降、稲わらに切り替え。

繁殖牛：WCSは過肥になるため、使用しない。稲わら給与。



直接払交付金

耕畜連携補助

⑤ 法人が補助金を受領

③ 法人が補助金を受領

A 農事組
合法人

① 水田の耕作を委託

③ WCS収穫作業を委託

① 堆肥散布作業を委託

② 稲の栽培を実施
(作業は構成員
である耕種農家)

④ 収穫作業を実施
(収穫物は持ち帰り)

② 堆肥散布作業
を実施

作業を委託する
耕種農家

作業を受託する
畜産農家
(T牧場他1戸)

⑥ 作業料の支払い (補助金の分配)

④ 作業料の支払い

【S 牧場】

○ 経営の概要

- 労働力 : S 氏 (収穫に数名のアルバイト)
経営規模 : 黒毛和種繁殖牛 27 頭



○ 耕畜連携の取組状況

- ・ 小型ロール作成に必要なモア、レーキ、ロールベラ、トラクター等はすべて自己で整備
- ・ 作業は、S 氏 (又は、その雇用者) が行う。

【WCS】

- ・ 自己所有地と作業受託分を合わせて、4ha (2,000~2,300ロール)
- ・ 品種はキヌヒカリとヒノヒカリで、収穫は穂ばらみ期頃から開始し、乳熟期までに完了する
⇒夏期での収穫のため、かなり乾燥していた。
また、短期間で作業を完了する必要があるため、作業はきつい。

【その他】

- ・ 稲わら 2,500~3,000ロール程度を収集



【堆肥散布】

- ・ 無償で散布



○ WCSの給与状況

- ・ 繁殖牛 : カットせず、長いまま給与。WCS + 稲わら
- ・ 子牛 : カットして給与。収穫したWCSのおよそ半分にあたる1,000~1,200ロール分

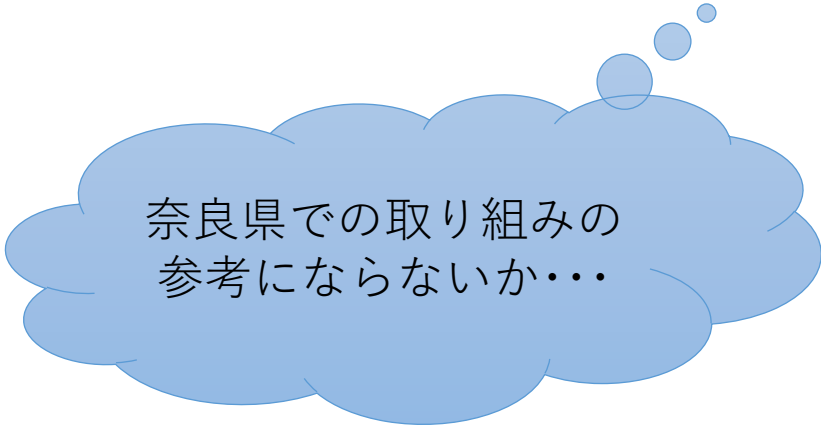


★WCSは嗜好性が良いが、逆にカビが生えていても食べて繁殖成績が落ちるため、注意している

視察報告のまとめ

各事例に共通して言えること…

- ★ 規模に限らず、畜産農家が必要な機械を所有して収穫作業を実施
→ 作業受託等によりある程度のコストカットと品質の担保
- ★ 耕種農家と畜産農家の良好なコミュニケーションと相互理解
→ 耕種農家は省力化（収入減）
畜産農家は安定的な飼料確保（負担増）



奈良県での取り組みの
参考にならないか…

令和6年度は…

- ★ 山添村（農事組合法人ひがしとよ営農組合様ご協力）等にて、畜産農家が所有する機械を利用させていただき、小型ロール作成の実証試験を実施する予定です。